

# 横須賀漁民は、帝国陸海軍と、米軍にどう扱われたか？

横須賀軍港域での操業は、戦前は海軍、憲兵の規制下に置かれ、また占領下では、米軍の無警告発砲で2名射殺されるなど、命がけだった。

カタログ歴史に記載のない、本市民衆史。大正期～戦中の軍部による漁業規制と逮捕、拷問。占領時、米海軍の銃弾下の操業（深浦漁民2名射殺）の体験談を3人の漁師が語る。軍港内漁業の唯一の証言録！

現在、横須賀軍港は提供水域というものの、占領下と同様（漁業）制限水域があり、そこは治外法権で、米軍優先で軍港管理を行っている。

上映後、戦前戦中と戦後占領下の、民衆の暮らしを、識者と語り合います。

漁民証言録

「海は誰のもの」上映会

1981年作成 トークスライド(25分)

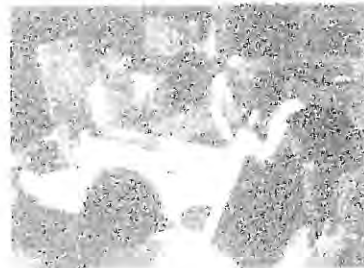
日時：7月27日(金)午後7時～午後8:30

場所：産交プラザ第1研修室

参加費：500円



証言する3名の深浦の元漁師たち



聴き取りの様子。昭和52年(1977)6月

- ・明治10年、軍港エリアが指定され、漁業規制始まる。大正昭和と規制区域広がる。
- ・海軍横須賀航空隊飛行場と空技廠造成で干潟大埋め立て。鉈切・深浦の漁場の喪失。
- ・昭和に入り、深浦の網漁に規制強まる。海軍による身柄拘束、憲兵隊による逮捕起訴。
- ・昭和16年春、憲兵隊、深浦漁民に漁業権放棄を迫る。
- ・昭和20年1月物資統制令違反で深浦漁民10数名逮捕。一番酷い拷問と長期拘留。
- ・占領下の軍港内漁業(講和条約まで)。米兵、漁民に向け警告なしの発砲を繰り返す。
- ・昭和22～23年深浦漁民2名射殺さる。証言者全員、撃たれた経験を持つ。

知られざる横須賀の歴史の闇を、証言録とスライド映像で公開。後世に残す為の上映会！  
主催 立憲主義を守るよこすか市民の会

連絡先 一柳方 EX-ℓ:umihiro@bc.mbn.or.jp 電話/FAX 046(897)5561